R6 以降法科大学院公的支援見直し強化・加算プログラム 加算率評価方法等主な変更点

【新設事項】

- 低目標 KPI の評価方法（資料 1-2 p 8）

【変更事項】

- 取組の 4 段階評価の表記、摘要の修正（資料 1-2 p 7）

⇒点数に変換し評価を実施していたことから、アルファベットによる標語を廃止。

⇒前回（R6・第 1 回）の委員コメントも踏まえ、摘要の文言調整。

旧		新	
評価	摘要	評価	摘要
S (5 点)	計画を上回って進捗している。 ・実績値が目標値を大幅に上回っているもの	5 点	令和 6 年度の実績値について、 以下のいずれにも該当 している。 ・目標値を 著しく上回 っている。 ・目標値が割合の場合は、 実数も増加 している、割合以外の場合は 取組内容も進捗 している。
A (3 点)	計画通り順調に進捗している。 ・実績値が概ね目標値を達成しているもの ・目標値は未達成であるものの、実績値を経年で見ると上昇傾向にあり、5 年終了後に目標値を達成することに期待ができるもの	3 点	令和 6 年度の実績値について、 以下のいずれかに該当 している。 ・ 目標値に達している 。 ・ 目標値に達していないが、全国平均を著しく上回るなど他の法科大学院と比較しても高い成果 を上げている。
B (1 点)	必ずしも順調に進捗しているとは言えないが、今後の取組状況により目標は十分達成可能。 ・実績値が目標値に達していないもの	1 点	令和 6 年度の実績値について、 以下のいずれにも該当 している。 ・ 目標値に達していないものの、一定の成果が見られる 。 ・ 今後の改善に向けた具体的な対応方策が示されている 。
C (0 点)	順調に進捗しているとは言えず、更なる工夫が必要。 ・実績値がほぼゼロであるなど、目標値に対して大きく乖離しており、目標値の達成が極めて困難と思われるもの	0 点	令和 6 年度の実績値が 目標値に達しておらず 、少なくとも 以下のいずれかに該当 している。 ・ 基準値も下回っているなど非常に低い 。 ・ 今後の改善に向けた具体的な対応方策が示されていない 。

●加算率の総合評価の表記修正（資料 1-2 p 10）

⇒加算率に変更なし。評価結果の分かりやすさの観点から変更

加算率	50%	30%	20%	15%	5%	0%
旧	S+	S	A+	A	B	C
新	S	A	B	C	D	E

●評価シートの簡略化（資料 1-2 p 9）

・計画策定時の記載と重複する内容は可能な限り省略するとともに、自動入力を増やすなど、評価シートを簡略化。また、各法科大学院が作成する実績報告書に評価シートを包含することにより、審査委員の負担を軽減。

【削除事項】

●各法科大学院提出資料のうち、自己評価欄及び説明欄を削除（各年度の目標値を設定したため）。